

## 「第 12 回東すみだレガッタ」実施報告書

表件のレガッタにつき、下記報告します。

### 記

1. 大会名：第 12 回東すみだレガッタ
2. 日時：2022. 3. 13(日)  
8:30 ミーティング  
9:30 第 1 レース  
16:30 最終レース
3. 場所：旧中川平井橋特設コース (300m)
4. 主催：NPO 法人 隅田川ローイングクラブ 後援：東京都ボート協会、墨田区
5. 参加者

	AM				PM			
審判長	栗山				栗山			
発艇※	吉野	平木	飯島	木越	櫻田	及田	飯塚	牧野
判定	櫻田	及田	飯塚	牧野	平木	飯島	木越	米山

※注

発艇部署は線審を兼務  
主審、監視なし

6. レース全般
  - ①距離 300m、10 分間隔の 2 ハイレース (小艇のみ 5 分間隔)
  - ②午前 20 レース、午後 8 レース
  - ③ナックルフォアレースをメインとし、小艇にてスカルとダブルスカルのレースを実施
7. 審判関連
  - (1) 発艇
    - ・呼び込みは競漕規則にある日本語による分読みを採用。
    - ・発艇台がないため、2 レーン側の岸から発艇号令
    - ・旗による発艇
  - (2) 線審
    - ・発艇が岸から行うため、発艇部署の真横になるため、発艇部署が兼務。  
ハンドル位置がスタートになるため、1・2 レーンのクルーが揃っているかを  
目視でおおまかに判断。

### (3) 判定

- ・主審を配置していないため、レースの終了は判定員が判断し白旗にて選手に知らせる。
- ・無線または双眼鏡による旗の確認で発艇を確認、記録がおらず審判が計測を行う。

## 8. レース上の問題点

- ① 2レーンは250m付近からレーン幅が狭くなり、進行方向左側に杭がある。午前と午後の2レースにて、シングルスカルがオールを杭に挟んでしまい艇がとまってしまうケースがあった。不可抗力としてレースは続行、着順はそのままとした。
- ② ハンドルスタートの橋から降ろされているハンドルが選手から見づらく、ハンドルに頭をぶつけるクルーが散見された。

## 9. 審判関連事項

### ① 日本語による分読み

市民レガッタでは、英語の分読みを聞き取れないクルーもいるため、日本語で実施。「スタート5分前」の「スタート」と「5分前」に間をとって聞きやすく工夫する。

### ② 旗によるスタート

- ・ロールコールの最後のクルー名のあと、線審旗を見てから「アテンション」をかける
- ・「アテンション」号令と同時に赤旗をあげない。「アテンション」号令後、クルーの様子(発艇に支障がないか)を確認してから赤旗を頭上に上げ、線審旗を確認し「ゴー」をかける。

### ③ 発艇のタイミング

ロープスタートでポートホルダーがいないため、2分前をかけたあと、線審旗が上がったら即座に発艇させないと艇が揃わなくなってしまう。定刻に出すのではなく、艇がそろった最良の瞬間に発艇させなければならない。

## 10. 所見

東ボ審判員は、普段、長方形に整備された人工のコースでレースを行っているため、こうした自然の川でのレース経験が少ない。また選手も、競技者というよりは一般市民が多い。

東すみだレガッタはこのようなレースへの対応に慣れる絶好の機会である。東ボ審判は技量向上のためにもできるだけ参加し、審判技術を身に着ける場として利用してほしい。

前回大会では発艇を橋の上から行ったが、今回は1レーン横の岸から実施した。橋の上からは300m先のフィニッシュまで見通せ、審判艇がつかないレースのため発艇員からの警告も貴重となるため、橋上が発艇台として絶好のロケーションではあるが、公道でもあり通行人の邪魔になるトラブルを避けるため1レーン横の岸から実施せざるを得なかったのが残念であった。

## 発艇

発艇は橋の上からではなく1レーン側の岸から実施。

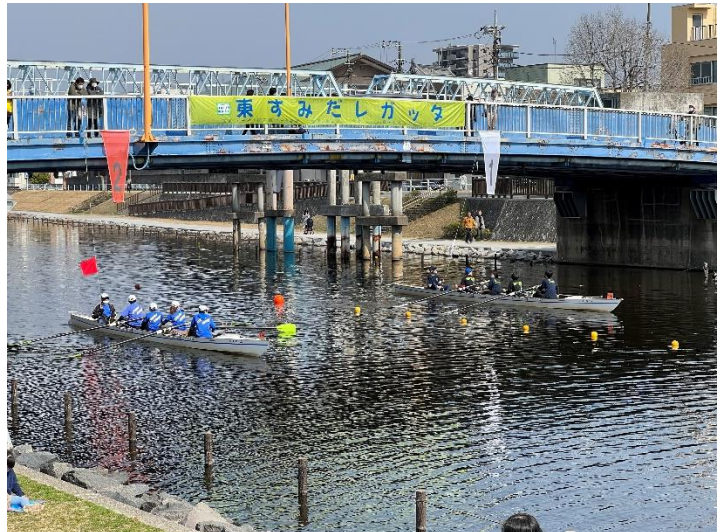
右の写真のように発艇員と線審が並ぶことになる。



## 線審

ステイクポートがなく、ポートホルダーの代わりに競技者が橋上から垂らされたロープをつかんで位置取りをする。

線審は1レーン側の岸からメガホンで声をかけ、ロープをつかんだまま漕がせて艇首をそろえる。



## 主審

主審が配置されないため、危険回避をさせることができない。1レーン（左手）奥に杭がでており、ここにオールを接触させてしまうクルーが2艇あった。



## 【今日の競漕規則】

### 第 39 条 (スタート手順)

1 発艇 (スタート) 定刻 5 分前から発艇員による分読みが始まる。分読みは、通常英語を用いるものとするが、ボート競技普及を主目的とした大会等で、事前に代表者会議等で告知した場合には、日本語で分読みを行うことができるものとする。分読みの号令は、「five minutes (ファイブ ミニッツ)」(スタート 5 分前)、「four minutes (フォーミニッツ)」(スタート 4 分前)、「three minutes (スリーミニッツ)」(スタート 3 分前)、「two minutes (ツーミニッツ)」(スタート 2 分前)の順に行われる。

(中略)

4 クルーは、「two minutes (ツーミニッツ)」(スタート 2 分前)の号令後、発艇員の監督下に入り、スタートその他の指示に従わなければならない。

## 【集合写真】



以上